

協働・連携事例集 2021

2022年6月30日現在

- No.1 アウトドアのプロと鉄道会社が地域防災についてトークセッション**
株式会社アンプラー・ジュインターナショナル (UPI) × UPI アドバイザー・アウトドアライフアドバイザー 一寒川一氏 × 江ノ島電鉄株式会社
- No.2 同じ地域で活動する放課後等デイサービスを運営するNPOと自閉症児・者親の会の連携**
認定NPO法人 Ocean's Love × 茅ヶ崎・寒川やまびこ (茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会)
- No.3 三浦半島での災害に備え、三浦・葉山地域における防災活動団体の連携**
葉山災害ボランティアネットワーク × そなえるネットワークみうら
- No.4 乳がん予防啓発団体と企業が連携し社員向けオンラインセミナーを開催**
(一社)乳がん予防医学推進協会 × KDDI (株)
- No.5 地域の溪流の親子自然体験イベントでのSDGsでつながった企業と団体3者の連携**
美しい久野里地里山協議会 × ウォータースタンド (株) × NPO法人和の文化塾
- No.6 企業2社が市と協働・連携し、小学校でSDGs出張授業とワークショップを開催**
(株)デコリア × ウォータースタンド (株) × 小田原市 未来創造・若者課 × 小田原市立桜井小学校
- No.7 NPOと市の老人クラブ連合会が連携し、コロナ禍での運動不足解消とツールを使った新しい運動のあり方「オンラインレッスン」**
座間市老人クラブ連合会 × NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ
- No.8 酒匂川に関する環境保全の目的でつながった企業とNPOの連携**
(株)神鋼環境ソリューション × めだかサポーターの会
- No.9 企業と3団体が「めだか米」を通じて地域の田んぼとメダカを守る**
ウエイズグループ (横浜トヨペット・トヨタカーラ神奈川・ネットトヨタ神奈川) × 桑原めだか米の会 × (一社)おだわら農人めだかの郷 × めだかサポーターの会
- No.10 見方を変えて、味方になろう！～発達に多様性のあるユニークな子どもたちを応援するため、地域に根差した店舗でのイベント開催～**
いろいろなカタチ鎌倉 × MUJicom ホテルメトロポリタン鎌倉
- No.11 コロナ禍での発達障がい児の音楽発達支援で団体と企業が協働連携**
(一社)音楽発達サポート協会 × (株)協進印刷
- No.12 アートで地域を盛り上げよう！高校と鉄道会社と地域の企業の協働**
県立小田原城北工業高校 × (株)デコリア × 伊豆箱根鉄道 (株) × 小田原フラワーガーデン
- No.13 NPOと地元企業がコロナ禍でのテイクアウト代行サービス「ズーパーイツ」を展開**
(特非)地域魅力 × 湘南葉山不動産 (株)
- No.14 障がいのある方が描いたデザインの採用による企業とNPOの協働連携**
カーボンフリーコンサルティング (株) × NPO法人ぶかぶか (就労継続支援B型事業所)
- No.15 おむつ自動販売機を通して子育て世代の支援を**
認定NPO法人こまちぶらす × 東京キリンビバレッジサービス (株) × 花王 (株)
- No.16 子育て家庭を地域の飲食店や事務所、農園と連携して応援する“未来食堂”**
NPO法人湘南まぜこぜ計画 × 中華料理三番 × 藤沢本町たいこや × 伊藤さん、ち × Nico's Kitchen × ほうとうの店元祖へっころ谷 × 駅前直売所八〇八カフェ × はっぴーあわー × レストラン リッシュ × 坊さんキッチン en × 和食ダイニング七彩 × 光友会 × おむすびだいが × ハウス・もん × ミンナミ食堂 × 香港軒 × ぐるんとびー × まるほ農園

次のページに続くにゃ



No.17 横須賀市の職員が繋ぐ大学ゼミと地元農家・企業の地域課題解決

(一社)KAKEHASHI×立教大学法学部薬師丸ゼミ住民班×たのし屋本舗×鈴也ファーム×プロ雅農園×Bell Tree Farm×井上農園×(株)MITO CREATIVE×(株)良品計画 無印良品コースカベイサイド横須賀店

No.18 企業とNPOの共催による「川でつながるSDGs交流会」

NPO 法人海の森・山の森事務局×(株)大川印刷

No.19 1フラワーfor 10スマイルプロジェクト

横浜緑地(株)×(社福)開く会共働舎

No.20 障がい者施設が社会的企業の開発製品の販路を拡大

NPO法人あんしん農園×神奈川歯科大学附属病院

No.21 市民団体が小学生、高校生や専門学校の学生と協働で戦国時代の城址での自然保護活動

玉縄城址まちづくり会議×学校法人大原学園ほか

No.22 NPOと美術系若手アーティストの協働連携

認定NPO法人あっちこっち×美術大学卒若手アーティスト

No.23 手話通訳団体と福祉従事者等へのIT支援NPOがコロナ禍で協働

横浜市手話通訳奉仕団たつの会×(特非)NPO福祉支援ゆうやけネット

No.24 「寄付でつなぐ未来へのバトン2021」寄付月間賛同企画イベントの開催

寄付月間 2021@日本大通実行委員会



協働・連携に関する情報を寄せてほしいにゃ

神奈川県では、企業・NPO・大学など多様な主体に出会いの場や学びの機会を提供し、協働・連携を促進することを目的とした「企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業」として、次の2つの事業を実施しています。

＊ 「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング」(2012年度～)

地域課題の解決に向けた、企業、NPO、大学等多様な主体の出会いと、連携のきっかけを作り出す場として開催。

＊ 「スタディツアー」(2014年度～)

協働が上手く進んでいる事例や先進的な取り組みを行っている企業・NPO・大学等の現場を訪問して学び、参加者が自組織に持ち帰り実践していく学びの場として開催。

発行：神奈川県政策局政策部NPO協働推進課

この冊子には、NPO協働推進課にお寄せいただいた協働・連携に関する情報のうち、2022年6月30日現在、掲載することについて関係者のご了承をいただけた事例のみを掲載しています。

No.1 アウトドアのプロと鉄道会社が地域防災についてトークセッション

【実施主体】

株式会社アンプラージュインターナショナル（UPI）×UPIアドバイザー・アウトドアライフアドバイザー寒川 一（さんがわ はじめ）氏×江ノ島電鉄株式会社



・UPIアドバイザー・アウトドアライフアドバイザーの寒川一氏と江ノ島電鉄株式会社が、2022年2月開催の「企業・NPO・大学・市民のためのパートナーシップミーティング in 鎌倉」で出会ったことから、寒川氏が関わっている株式会社アンプラージュインターナショナル（UPI）主催のオンラインイベント

「UPI SESSIONS Vol.6」に、寒川氏と江ノ島電鉄株式会社が出演しました。オンラインイベントは3月11日に開催され、Zoomでトークセッションが配信されました。

・イベントでは、江ノ島電鉄株式会社からは「災害時避難ハンドブック」発行と利用客

への無料配布の取組みが紹介されました。また、寒川氏とのトークセッションにより、鎌倉の地形や自然条件などアウトドア見地からも重ね合わせた地域防災に

についてのトークが展開され、視聴者である市民に「もしものとき」に備えるための地域のつながりについて考えていただいたり、地域の身近な鉄道である江ノ島電鉄株式会社の災害に対する取組みについて知っていただくきっかけとなりました。



No.2 同じ地域で活動する放課後等デイサービスを運営するNPOと自閉症

児・者親の会の連携

【実施主体】

認定NPO法人 Ocean's Love×茅ヶ崎・寒川やまびこ（茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会）

- ・認定NPO法人 Ocean's Love と茅ヶ崎・寒川やまびこが、2022年3月開催の「企業・NPO・大学・市民のためのパートナーシップミーティング in 茅ヶ崎・寒川」で出会ったことから、連携が始まりました。



- ・4月に、茅ヶ崎・寒川やまびこの定例会に Ocean's Love も参加。Ocean's Love の活動について説明しました。
- ・5月には、茅ヶ崎・寒川やまびこで開催しているヨガイベントの講師に依頼し、Ocean's Love が運営する放課後等デイサービス「アフタースクール Ocean's Love 茅ヶ崎」にて、スクールの利用児童を対象に、約1時間のヨガレッスンを実施しました。楽しみながらできるプログラムで、子どもたちは初めてのヨガで盛り上がりました。
- ・6月には、茅ヶ崎・寒川やまびこがアフタースクール Ocean's Love 茅ヶ崎を訪問し、アフタースクールでの子どもたちが活動する様子（この日のプログラムは室内トレーニング）を見学。見学後に感想やアドバイスをいただきました。（発達障がいのある子ども達等へのゲームを通じた積極的なアプローチが印象的！）
- ・ヨガレッスンの定期的な開催やお互いの活動についての意見交換等、子どもたちをサポートする同じ地域の団体として、今後も引き続き連携していく予定です。

No.3 三浦半島での災害に備え、三浦・葉山地域における防災活動団体の連携

【実施主体】

葉山災害ボランティアネットワーク×そなえるネットワークみうら

- ・葉山災害ボランティアネットワーク、そなえるネットワークみうらが、連携を始めました。
- ・現在は、それぞれの地域で防災活動を行う団体として、日ごろの活動等について情報交換しながら、団体のイベントに招待したり、参加したりしています。
- ・2022年4月には、葉山災害ボランティアネットワークが主宰した「災害発生時の対応体験会」（土のう作り等の勉強会）に、そなえるネットワークみうらが参加し、連携を深めました。
- ・三浦半島に所在する防災活動団体として、三浦・葉山地域で災害が発生した際はお互い速やかに連携できるよう、日ごろから交流していきたいと考えています。

No.4 乳がん予防啓発団体と企業が連携し社員向けオンラインセミナーを開催

【実施主体】

一般社団法人乳がん予防医学推進協会×KDD I 株式会社



・一般社団法人乳がん予防医学推進協会は、検診環境整備、セミナー、イベント、ブレストアウェアネス教育事業*を通じ、乳がんに対する認知度を上げ、受診者が安心できる乳がん検診の提供やいまだ低い乳がん検診率の向上を目指す、現場で乳がん検診、診療に携わっている放射線技師等の医療従事者が立ち上げた団体です。

- ・2021年2月開催の「スタディツアー」で一般社団法人乳がん予防医学推進協会が参加者へ協会の取り組みを紹介、参加していたKDD I 株式会社の社員が一般社団法人乳がん予防医学推進協会の取り組みに賛同し、自社の社員向けに乳がん予防に関する啓発セミナーの企画を相談、2021年7月29日に「社員向け乳がん予防啓発に関するオンラインセミナー」を開催しました。



- ・この社員向けセミナーは、全国のKDD I 社員にオンラインで配信され、社員 85 名



(うち7名が男性社員)の参加がありました。

- ・また、啓発事業の一環として2021年度に開催した一般社団法人乳がん予防医学推進協会主催の絵画コンクールでは、KDD I 株式会社も協賛企業として参画し、応募作品の中からKDD I 賞を設定、KDD I 株式会社社内でコンクールへの応募者を募ったほ

か、授賞式当日は運営ボランティアとして参加し、地域の乳がん検診啓発活動に貢献しました。引き続き、KDD I は乳がん予防啓発事業の取り組みを支援していく予定です。

※ ブレストアウェアネス教育事業とは、乳がん予防のために、自分の乳房の状態に日ごろから関心を持ち、乳房を意識して生活することを普及啓発する事業。

No.5 地域の溪流の親子自然体験イベントでのSDGsでつながった企業と団体 3者の連携

【実施主体】

美しい久野里地里山協議会×ウォータースタンド株式会社×NPO法人和の文化塾

- ・地域の美しい里地里山の保全活動等を行っている美しい久野里地里山協議会、水道直結式ウォーターサーバー等を販売するウォータースタンド株式会社、大人や子ども、外国人などに日本文化を紹介して伝承・継承する活動をしているNPO法人和の文化塾の3者が、



2021年2月開催のパートナーシップミーティング（小田原）で出会い、美しい久野里地里山協議会が里山保全の一環として毎年実施している溪流での親子自然体験イベント「野遊び探検（夏の巻）」を2021

年8月に協働で開催しました。



- ・具体的には、溪流近くでの生き物観察や川の遡行、鮎のつかみ獲り、竹を使った工作、アウトドア料理などの自然体験イベントを行う

中で、地域の特産である足柄茶を使った冷茶体験を和の文化塾が担当、その際の冷茶を淹れる水や、アウトドア料理で使用する水は、ウォータースタンド株式会社が自社製品で浄水した水を使用しました。また、ウォータースタンド株式会社は、小田原市とプラスチックごみ削減に向けた協定を締結しており、ペットボトルのプラスチックごみを削減し、水筒等マイボトルの携帯をすすめる取組みについても紹介しました。

- ・3者の活動は、全てSDGsにつながる取組みということで共通しています。それぞれの企業・団体の思い、願いを参加者に伝え、SDGsの目標のひとつである「パートナーシップで目標を達成しよう」の考え方に沿って、企業と団体のパートナーシップで開催することができました。



No.6 企業2社が市と協働・連携し、小学校でSDGs出張授業とワークショップを開催

【実施主体】

株式会社デコリア×ウォータースタンド株式会社×小田原市未来創造・若者課×小田原市立桜井小学校

- ・小田原市では、「持続可能な地域社会」と「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けて小田原市と共に取り組む企業・学校・団体等を「おだわらSDGsパートナー」として、190者以上に登録していただいています。



- ・2021年3月に行われたおだわらSDGsパートナーオンライン交流会をきっかけに、株式会社デコリア・ウォータースタンド株式会社が知り合い、その後、小田原市未来創造・若者課と協働・連携し、2021年10月に小田原市立桜井小学校6年生の児童を対象に、出張授業とワークショップ「マイボトルを作ってみよう」を開催しました。

- ・まず、出張授業として小田原市・ウォータースタンド株式会社・株式会社デコリアが行っているSDGsの取り組みを説明。

- ・その後、ワークショップを開催。子どもたちは、株式会社デコリアから提供された製造時に製品として使用出来ず廃棄になってしまう黒板壁紙『Blackboard』※に自由に絵や文字を描き、出来上がった紙をクリアケース型のタンブラーに入れ、世界で1つのマイタンブラーを作りました。そしてウォータースタンド株式会社が用意した水道直結ウォーターサーバーから完成したマイタンブラーに給水し、試飲体験を行い、環境負荷が軽減する行動を体験。



- ・桜井小学校の6年生は、総合学習でSDGsについて調べ、自分たちにできることがないか考えていたこともあり、とても熱心に取り組んでくれました。
- ・今後も、子どもたちに身近なことからSDGsに取り組んでもらうため、協働・連携し、このような企画を実施していきたいと考えています。

※ 『Blackboard』とは、株式会社デコリアが製造し、株式会社サンゲツが販売するグッドデザイン賞・キッズデザイン賞・神奈川なでしこブランド認定商品になった、黒板のようにチョークで自由に描き消しできる壁紙。

No.7 NPO法人と市の老人クラブ連合会が連携し、コロナ禍での運動不足解消とツールを使った新しい運動のあり方「オンラインレッスン」

【実施主体】

座間市老人クラブ連合会×NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ

- 座間市老人クラブ連合会とNPO法人ダンスライフコミュニケーションズは、それぞれコロナ禍での運動不足解消、ツールを使った新しい運動の在り方を模索していましたが、神奈川県いのち・未来戦略本部室の「コミュニティ再生・活性化モデル事業」として、NPO法人ダンスライフコミュニケーションズは、座間市老人クラブ連合会のメンバーに向けて、体操のオンライン（Zoom）レッスンを企画・実施しました。



- 2022年2月に、連合会の女性会員が集まる会議の中で、75分程度、生活習慣病、認知症予防に向けた姿勢調整と血流を促す「脳トレリズム体操」を行いました。

- 老人クラブの参加者は、60代～80代の女性で、オンラインでの運動は、ほとんどの人が初めてであった中、講師が丁寧に指導したことで、すぐにオンラインの画面に慣れ、楽しんで体操をすることができました。
- 今回のレッスンは、参加者が1つの会場に集まり、みんなでスクリーンに映し出された画面を見ながら体操を実施するという状況であったことから、1つの画面の中に10数人の参加者が映っており、一人一人の動きを正確に把握することはできませんでしたが、講師がゆっくり話すことを心掛け、確認頻度を増やしたり、進行を細分化したりして、参加者が動きを理解しやすいように工夫しました。ダンスライフコミュニケーションズとしては、通常のオンラインレッスンや対面レッスンとは違う課題がみえたことは、非常に有意義でした。
- 老人クラブとしても、コロナ禍であまり活動ができていませんでしたが、今回の試みで、今後オンラインを使った活動の可能性を確認することができました。



※ 2団体のURLは以下の通りです。

座間市老人クラブ連合会 <http://zamat.genki365.net/gnkz/mypage/index.php?gid=G0000423>

NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ（DLC） <https://dlc.themedia.jp/>

No.8 酒匂川に関する環境保全の目的でつながった企業とNPOの連携

【実施主体】

株式会社神鋼環境ソリューション×めだかサポーターの会

- ・酒匂川流域の下水処理に携わる企業として、水環境保全や地域住民との相互理解を深める取り組みを模索していた株式会社神鋼環境ソリューションと、酒匂川水系に生息し神奈川県内で唯一生息する野生メダカ（絶滅危惧種）保全活動に参画してくれる人を求めていためだかサポーターの会が、2019年10月開催の「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング」で出会い、一緒に活動を始めました。



- ・株式会社神鋼環境ソリューションの社員の有志が、めだかサポーターの会の実施する田植え、外来種駆除、パトロール、草刈り、稲刈り、清掃等の活動に参加し、一緒に活動を行っています。
- ・また、株式会社神鋼環境ソリューションは、活動用具として軍手、ゴム手袋、ゴミをつかむトング等の寄贈も行っています。
- ・この協働連携を行うことにより、めだかサポーターの会としては、ボランティア人員の確保、活動用具の寄贈による資金面の支援、株式会社神鋼環境ソリューションの若い社員が参加することによる組織の活性化に繋がっています。また、下水処理場の運転管理を担っている株式会社神鋼環境ソリューションは、処理水放流先の酒匂川の水質環境、生態系の保全に大きく繋がっていることを実感でき、



社員のやりがい、モチベーションや業務パフォーマンスの向上と共に、社員レクリエーション環境の創出に繋がっています。

- ・今後もこの活動は継続する予定で、株式会社神鋼環境ソリューションの担当者は、現在は個人でめだかサポーターの会に入会し、運営役員としても活動しており、多岐にわたる活動を継続して連携していく関係が構築されつつあります。

No.9 団体や企業が「めだか米」を通じて地域の田んぼとメダカを守る

【実施主体】

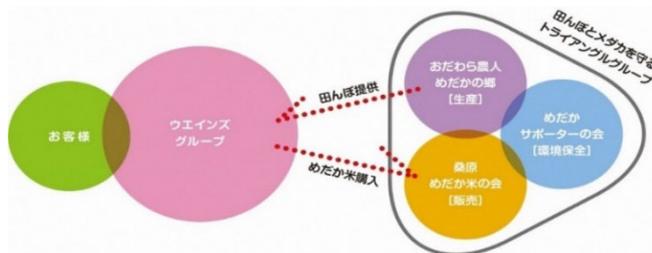
ウエイズグループ（横浜トヨペット・トヨタカローラ神奈川・ネットヨタ神奈川）×桑原めだか米の会×一般社団法人小田原農人めだかの郷×めだかサポーターの会



- ・「めだか米^{※1}」を生産する一般社団法人おだわら農人めだかの郷^{※2}、「めだか米」を販売する桑原めだか米の会^{※3}、メダカが生息する水路や田んぼの環境保全を行うめだ

かサポーターの会^{※4}の3団体が協働で、地域の田んぼとメダカをはじめとした生態系の保全活動を行っています。

- ・さらに2015年からは、神奈川県内のトヨタ販売店の「ウエイズグループ」が、お客様へのプレゼントとして「めだか米」を購入、それと並行して「めだか米」の活動を告知するなど、地域の農業や環境保全を支援しています。



- ・また、ウエイズグループでは、お客様とご家族、グループの社員に「めだか米」の田植えや稲刈りの農業体験を提供することで、環境保全に対する意識の高揚にも貢献しています。
- ・2021年度は、6月に田植えを実施、10月には、めだか米の活動が保険会社の「いきものが住みやすい環

境づくり」の応援プロジェクトに選定されたことから、さらに多くの企業や団体の協力のもと稲刈りイベント「みんなで稲刈り大作戦！」を実施し、120名以上に参加していただく等、活動が広がっています。

- ・これからも多くの団体や企業で支え合い、「めだか米」を通じた地域の農業振興、環境保全に取り組んでいきます。



※1 「めだか米」は、酒匂川の水と豊富な湧水を用いて小田原市桑原地区で生産された「キヌヒカリ」等のお米の総称です。

※2 「一般社団法人おだわら農人めだかの郷」は、野生メダカが生息する小田原市桑原地区の休耕田を引き受け、メダカをはじめとした生き物と共生する田んぼで「めだか米」を生産しています。

※3 「桑原めだか米の会」は、桑原地区の「めだか米」を販売して地域経済と生態系の保全を支えています。

※4 「めだかサポーターの会」は、メダカが生息する水路や田んぼの環境保全、ビオトープづくり、外来生物の侵入を監視するパトロール、小学校への出張授業やイベントでの教育啓発活動等を行っています。

No.10 見方を変えて、味方になろう！～発達に多様性のあるユニークな子どもたちを応援するため、地域に根差した店舗でのイベント開催～

【実施主体】

いろいろなカタチ鎌倉×MUJIcom ホテルメトロポリタン鎌倉×星山麻木氏

- いろいろなカタチ鎌倉は、発達が多様でユニークな子どもたちに対する理解啓発を目的に活動しているお母さんたちの市民団体です。
- 多様に富んだ子どもたちの中には、困りごとや生きづらさを抱えていることがあります。それは本人のせいでもなく、周りのせいでもないこと、また一人ひとりの見方を変えるだけでも、みんなが生活しやすい環境が生まれるということ子ども自身や子どもの周りにいるみんなに知って理解してもらうために、『いろいろなカタチ新聞』を発行する



- るなど、発達支援に関する情報を発信しています。
- 2021年3月に、MUJIcom ホテルメトロポリタン鎌倉と協働で、店舗のオープンスペースで「いろいろなカタチ展」を開催しましたが、2021年11月には、同じオープンスペースで「いろいろなカタチ展 vol. 2」を開催。今回の展示のテーマは「『あなたはナニイロ？』じぶんを知る、見つめ



る」。「やってみよう！じぶんを知るワーク」では、ワークシートの風船に自分に当てはまるタイプの色を塗ってもらい、たくさん塗られている色のタイプで自分自身がどんな特性を持っているのかを改めて知り、見つめるきっかけにするワークの展示を行いました。



- また、会期中には、スペシャルコラボ企画として、明星大学の星山麻木教授を講師に迎え、自分とこどもの違いについて理解する「にじいろワークショップ」とトークイベント「ちがうことは強いこと」も開催し、大変盛況でした。
 - これからもより多くの方に発達の多様性について知っていただけるよう、色々な形で情報発信していく予定です。
- ※ 『いろいろなカタチ新聞』バックナンバー（下記の2か所からダウンロードできます）



① 「いろいろなカタチ鎌倉」 URL <https://katachi0467.jimdofree.com/> 左記 URL の二次元コード↓

② 鎌倉市 HP URL

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/chikyo/ironnakatatinbun.html>



No.11 コロナ禍での※発達障がい児の音楽発達支援で団体と企業が協働連携

【実施主体】

一般社団法人音楽発達サポート協会×株式会社協進印刷

- 一般社団法人音楽発達サポート協会は、音楽を通じ、発達障がい児の言葉の発達とコミュニケーション力を高めながら持って生まれた能力の可能性を広げ、創造力豊かな表現ができるように支援する団体です。
- コロナ禍で、発達障がい児が自分を表現する機会が失われている中、発達障がい児の親や保育者、教育者が発達障がい児を音楽で笑顔にする方法を学ぶ「オンデマンド講座」という新しいプログラムの制作に当たり、2019年度のスタディツアーで出会った株式会社協進印刷に、講座のパンフレット、資料、教材、セミナー動画等の作成を協力依頼することにしました。
- 株式会社協進印刷は、コミュニケーションに関する様々な課題に対し、印刷物、デジタルメディア、広報企画、ソーシャルマーケティング等の手段を用いて解決する「ソリューション・プロバイダー」として地域に貢献し、CSRの普及啓発、企業による社会課題の解決を後押ししている企業です。
- 講座の内容を分かりやすく伝えるため、デザインやレイアウトにこだわって「オンデマンド講座」を作成したことで、コロナ禍での音楽発達支援の新たな道が広がり、2021年12月にはこのプログラムを使ってオンラインクリスマスコンサートを開催し、今までより広く様々な分野の方に興味を持っていただくことができました。
- 今後も、引き続き、株式会社協進印刷と協働で、視覚に訴える教材や資料を作成して、コンサートやイベントで活用しながら、発達障がい児やその親、保育者、教育者へのサポートを広げていきたいと考えています。



No.12 アートで地域を盛り上げよう！高校と鉄道会社と地域の企業の協働

【実施主体】

県立小田原城北工業高校×株式会社デコリア×伊豆箱根鉄道株式会社×小田原フラワーガーデン

- ・県立小田原城北工業高校デザイン科の生徒たちは、例年地域のお祭りのポスター作成やイベント運営を通じて日々の勉強の成果を見せる場がありましたが、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となり、活躍の場・表現の場が失われてしまいました。



- ・そうした地元の高校生の厳しい実情を知った株式会社デコリアが、「限りある高校生活を充実したものにしてあげたい」、「地域企業としてコロナ禍の今だからこそ出来ることがあるのでは」という思いから、以前より交流のあった小田原フラワーガーデンと伊豆箱根鉄道株式会社に呼びかけ、2020年度から地元異業種企業と高校の4者が連携する協働事業がスタートしました。
- ・2021年度も引き続き「アートで地域を盛り上げよう2021」プロジェクトとして、県立小田原城北工業高校デザイン科の生徒が、小田原フラワーガーデンで行うイベント『Tropical Dome Twilight Mission』の告知を、株式会社デコリアが製造した黑板壁紙『Blackboard』※を用いて制作し、伊豆箱根鉄道大雄山線飯田岡駅に掲示する企画を実施しました。2年目となる2021年度は、高校生のメンバーも



9人と増え、活気ある中での制作が行われました。

- ・コロナ禍がきっかけとなりスタートした地元3企業と高校の連携事業ですが、今後も継続して連携し、高校生にとっての仲間との絆を深める場、成功体験の場、また地域活性の場と

して大切にしていきたいと考えています。

※ 『Blackboard』とは、株式会社デコリアが製造し、株式会社サンゲツが販売するグッドデザイン賞・キッズデザイン賞・神奈川なでしこブランド認定商品になった、黑板のようにチョークで自由に描き消しできる壁紙。

No.13 NPOと地元企業がコロナ禍でのテイクアウト代行サービス「ズーパーイーツ」を展開

【実施主体】

特定非営利活動法人地域魅力×湘南葉山不動産株式会社

- ・コロナ禍での飲食店経営への打撃や、生活様式の変化を余儀なくされる地域の人々への支援の必要性から、地元企業の協賛のもと、NPO法人がテイクアウト代行サービス「ズーパーイーツ」（逗子市の「逗」と葉山町の「葉」から「ズーパーイーツ」）を企画し、実施しています。



- ・ズーパーイーツは、利用者が注文した飲食店のメニューをスタッフが代わりに受取り、自宅まで届けるデリバリーサービスです。
- ・対応している店舗は、逗子・葉山にある約20店で、配達エリアは、逗子市内・葉山町内で、月・水・金曜日は葉

山エリア、火・木・土曜日は逗子エリアへ届け、利用者の料金は、飲食代+注文額の10%（お届け料）としています。

- ・数年前に特定非営利活動法人地域魅力の代表と湘南葉山不動産株式会社の代表が地域の交流イベントで知り合ったのがきっかけとなり、それ以来企業からは地元貢献できるきっかけや方法について相談されていましたが、今回のコロナ禍において、地元貢献する企画が実現することとなりました。



- ・特定非営利活動法人地域魅力が事業の計画・運営を担い、湘南葉山不動産株式会社からは、デリバリースタッフの人件費や広告費を協賛（寄附）していただくとともに、スポンサーとして利用者にもPRしていただきました。このほかに、趣旨に賛同した地元の企業2社の協力もありました。



- ・このサービスは2020年4月から始まりましたが、地元の飲食店、地域に住む人々を応援し、またアフターコロナを見据えて地元店舗のファンづくりやつながりづくりのきっかけになればと考えています。

No.14 障がいのある方が描いたデザインの採用による企業とNPOの協働連携

【実施主体】

カーボンフリーコンサルティング株式会社×NPO法人ぶかぶか(就労継続支援B型事業所)

- カーボンフリーコンサルティング株式会社は、企業や個人が排出するCO₂を、再生可能エネルギー由来のクレジット購入等でオフセット（打ち消す）したことを証明する証書「再エネ証明書」の発行をしています。
- カーボンフリーコンサルティング株式会社の発行する「再エネ証明書」の背景に、障がいのある方の就労支援を行っているNPO法人ぶかぶかで働くメンバーさん（ぶかぶかさん）の描いたデザインが採用されました。
- この協働は、NPO法人ぶかぶかのぶかぶかさんが描いたデザインを、株式会社太陽住建が『SDGsレポート2019』の表紙絵に採用したところ、それを目にしたカーボンフリーコンサルティング株式会社が感銘を受け、2020年から協働連携がスタートしました。
- この「再エネ証明書」の図柄を並べると10枚で樹木のイラストが完成するように



なっていることから、証明書を10枚発行するごとにモンゴル国トングリ村に植樹することとし、現地の育苗・植林活動に貢献しています。

- また、この証明書が発行されるごとに、NPO法人ぶかぶかに手数料が支払われることで、障がいのある方への継続的な支援にもつながっています。

No.15 おむつ自動販売機を通して子育て世代の支援を

【実施主体】

認定NPO法人こまちぷらす×東京キリンビバレッジサービス株式会社×花王株式会社×横浜市鶴見区



- ・「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし、子育てを応援できる社会」を目指して認定NPO法人こまちぷらすとヤマト運輸株式会社神奈川主管支店が立ち上げた「ウェルカムベビープロジェクト」。とあるワークショップの中で、1人のお父さんが「おむつが自販機で売っていただいたらいいな」と発言したことが出発点になり、東京キリンビバレッジサービス株式会社と花王株式会社との開発がはじまりました。
- ・10か月に及ぶ開発期間を経て、通常の清涼飲料水の自動販売機にプラスして、メリーズの「Lサイズパンツ」「Mサイズパンツ」「おしりふき」「除菌ウェットシート」、一部では「液体ミルク」を購入できるようになりました。また、おむつには、ビニール袋1枚がセットとなっており、使い終わったおむつをお持ち帰りいただけるよう配慮しています。さらに、「生まれてきてくれてありがとう」といったデザインや市民の方が書いた応援メッセージなどが貼られる（一部のみ）等、自動販売機そのものがサービスのみならず街からのお祝いの気持ちが伝わる装置になっています。
- ・たった一人の子育て中の方の声が出発点となったこの自動販売機ですが、今や全国のショッピングモールや百貨店、行政施設や空港、道の駅などに約80か所近くに広がっています。売りたいものを売るのではなく、「役立つものを」ということが付加価値となっています。
- ・また、「おむつ自動販売機」の一部及び併せて設置展開している「ウェルカムベビープロジェクト支援飲料自動販売機」では、飲み物を購入すると、売上げの一部が「ウェルカムベビープロジェクト」に寄附される仕組みになっており、横浜市内を中心に全国に30か所ほど設置されています。
- ・2021年4月からは、横浜市鶴見区と東京キリンビバレッジサービス株式会社が連携し、鶴見区役所1階区民ホールにも「おむつ自動販売機兼ウェルカムベビープロジェクト支援飲料自動販売機」を設置し、子育て世代を支援しています。



No.16 子育て家庭を地域の飲食店や事業所、農園と連携して応援する“未来食堂”

【実施主体】

NPO法人湘南まぜこぜ計画×中華料理三番×藤沢本町たいこや×伊藤さん、ち×Nico's Kitchen×ほうとうの店元祖へっころ谷×駅前直売所八〇八カフェ×はっぴーあわー×レストラン リッシュ×坊さんキッチンen×和食ダイニング七彩×光友会×おむすびだいご×ハウス・もん×ミンナミ食堂×香港軒×ぐるんとびー×まるほ農園

- 小中学生を対象とした学習支援や子どもが自由に過ごすことのできる居場所“寺子屋ハウス”を運営するNPO法人湘南まぜこぜ計画では、仕事や病気等で食事の用意が困難な子育て家庭を地域で応援する事業として、その想いに賛同した地域の飲食店や農園と連携した“未来食堂”事業を実施しています。
- “未来食堂”では、子どもはスタッフと一緒に、協力している市内の飲食店で無料で温かい食事をする事ができます。協力している飲食店には、経費として1食あたり500円を支払っています。
- 2020年度に引き続き、2021年度も、コロナ禍での子どもたちの食を支援するため、7～8月の夏休み期間及び12～1月の冬休み期間、昼食の用意が難しい家庭の子どもに、事業に賛同した店舗等が作ったお弁当を100円で提供する「子ども弁当」を期間限定で実施しました。新しい飲食店や事業所とも提携しながら、夏休み期間は延べ365人、冬休み期間は延べ69人の子どもたちにお弁当を提供することができました。



- 2018年度から始めた事業ですが、基金を運営してお店に支払う経費の寄附を募り、また市の補助金、様々な団体の助成金や寄附を活用して事業を実施しています。
- 引き続き、地域の飲食店、事業所、農園との連携を広げつつ、地域の子育て家庭を応援していきます。

No.17 横須賀市の職員が繋ぐ大学ゼミと地元農家・企業の地域課題解決

【実施主体】

一般社団法人 KAKEHASHI×立教大学法学部薬師丸ゼミ住民班×たのし屋本舗×鈴也ファーム×プロ雅農園×Bell Tree Farm×井上農園×株式会社 MITO CREATIVE×株式会社良品計画 無印良品コースカベイサイド横須賀店



- ・立教大学の薬師丸ゼミが、横須賀市の地域課題解決をゼミの研究テーマとして取り上げることになり※、ゼミとつながりがあった一般社団法人 KAKEHASHI が、地元の農家や企業等関係団体とゼミの学生を結びました。
- ・なお、一般社団法人 KAKEHASHI は、横須賀市職員が、熱い思いを持つ人々を繋げ思いを実現する架け橋となり世の中をもっと良くすることを目的として、市長に直談判して承諾を得、副業として設立した法人です。
- ・2020年8月からの関係者による勉強会で挙げた

「規格外野菜は適正価格でやりとりされていない」という現状や「変形やキズ等の理由で出荷できない野菜は畑に廃棄している」という課題を解決するため、ゼミの学生の提案で、鈴也ファームの規格外野菜を使ったピクルス「Pickles Beauty」を作ることにしました。

- ・コロナ禍での「家飲み」需要を踏まえ、色彩豊かなニンジン・カブ・大根の素材を生かし、ポリフェノールを含みヘルシーな白ワインのビネガーを使い、ハートや星の形に型抜きしてSNS映えするピクルス作りを提案。野菜のカット方法、液の味、容器の形状や色、タグのデザインなど、商品のほとんどを学生が考案し、地元企業であるたのし屋本舗が製造加工、株式会社 MITO CREATIVE がタグデザインの補助として協力しました。



- ・半年ほどかけて形になったピクルスは、2021年4月に無印良品コースカベイサイド横須賀店において4日間限定で200個を販売、2022年2月には1日限定で50個を販売しました。
- ・野菜の収穫状況によって製造量や時期を決めているため、次回の販売日は未定ですが、若い学生たちのセンスが活かされた商品で新たな販路ができた上、食品ロスをなくす加工食品の開発は大事な課題であることから、ピクルスの継続販売や新たな商品開発など、引き続き活動を継続していきたいと考えています。

※ 3年前に行われたゼミの研究地選定の際、ゼミ生の中にいた横須賀市の学生がゼミの研究地として横須賀市を推薦し選定されました。

No.18 企業とNPOの共催による「川でつながるSDGs交流会」

【実施主体】

NPO法人海の森・山の森事務局×株式会社大川印刷

- 2018年9月から企業と団体が共催で定期的
に開催している「川でつながるSDGs交流会」。大岡川をはじめとする地域に流れる河川を通して、自分たちの暮らす街の持続的な発展を目指し、立ち上げた取り組みです。一人でも多くのアクティビスト（行動者）を増やしていき、横浜から他の地域にも活動が拡がることを願い活動しています。



- この交流会では、企業、NPO、行政、県民等、所属する組織や団体を問わず、毎回多くの方が参加し、SDGsに関連する取組みの情報共有や情報交換を定期的に行いながら、交流を深めています。

- 2020年度に引き続き、2021年度もコロナ禍のため、オンラインで3回開催しましたが、地域での交流の場を提供することで、新たなパートナーシップや活動に結び付いています。
- 今後も、定期的に交流会を開催していく予定です。



No.19 1フラワーfor10スマイルプロジェクト

【実施主体】

横浜緑地株式会社×社会福祉法人開く会共働舎



- ・地域に花と緑と笑顔を広めるプロジェクトとして、横浜緑地株式会社は、社会福祉法人開く会共働舎で知的障がいのある方々が育てた花苗を買い取り、買った苗1つにつき10粒の種を社会福祉法人開く会共働舎に提供しています。
- ・花苗は地域のボランティアと一緒に県立観音崎公園*等に植えられ、施設で袋に小分けした種は地域の人に配布するなど、施設・公園・地域の結びつきを作り出しています。
- ・このプロジェクトにより、施設で働く人たちは納品や外部の方とのやり取りなど貴重な経験ができ、さらに賃金向上にもつながっています。公園では良質な花苗の供給を継続して受けられるため、園内を鮮やかに彩ることができて、来場者の目を楽しませることができます。さらに、双方のお祭りなどで配布される種も地域の方に喜ばれています。
- ・2020年度に引き続き、2021年度もコロナ禍のため、共働舎で障がいのある方々が育てた花苗の買い取りのみの実施となりましたが、共働舎は引き続き状況をみながら、可能な範囲でこのプロジェクトを続けていく予定です。



※ 指定管理者の変更に伴い、県立観音崎公園への植栽は2022年3月末で終了しました。

No.20 障がい者施設が社会的企業の開発製品の販路を拡大

【実施主体】

NPO法人あんしん農園×神奈川歯科大学附属病院

- ・社会的企業である株式会社トライフが商品開発しているオーラルピース(飲み込んでも安心なオーガニック口腔ケア製品)を、神奈川歯科大学の協力を得て、障がい者支援を行うNPO法人あんしん農園が、神奈川歯科大学附属病院内で販売できることとなりました。
- ・オーラルピースの商品を広く知っていただくと同時に、販売経路の拡大にも寄与することができました。



No.21 市民団体が小学生、高校生や専門学校の学生と協働で戦国時代の城址での自然保護活動

【実施主体】

玉縄城址まちづくり会議×学校法人大原学園ほか

- ・500年前に伊勢宗瑞が鎌倉鎮護の城として築城した「玉縄城」。玉縄城址まちづくり会議は、その城址遺構の保全や地域の歴史的遺産を市民に伝えるための探索会や城址体験ボランティア講座を開催しています。また、玉縄北条氏の菩提寺・龍寶寺の玉縄歴史館では、鎌倉市教育委員会と玉縄城址まちづくり会議が協働事業で作成した、玉縄城域模型や発掘調査の出土品などを展示し、連続歴史講座や市民学芸員育成講座を開催しています。



- ・2021年7～8月には、鎌倉市内やその周辺の高校と連携し、「夏休み体験学習ボランティア」として、歴史講話の受講と玉縄城の遺構の模型制作や出土品の資料カードを作成等、歴史館におけるボランティア体験を実施しました。

- ・さらに、2021年11月～2022年1月には、「玉縄城址の森にフクロウを呼び戻そうプロジェクト」として、高校生や大原学園の生徒が玉縄歴史館で玉縄城の歴史を学んだ後、フクロウの巣箱3つを大木に設置、また、市民緑地の保全活動、自然観察等を行いました。



- ・これからも、連携して小・中・高校生や専門学校の生徒をボランティアとして受け入れ、

若い学生へ地域の歴史的遺産を守り・学び・伝える意識を高めていきたいと考えています。

No.22 NPOと美術系若手アーティストの協働連携

【実施主体】

認定NPO法人あっちこっち×美術大学卒若手アーティスト

- ・若手芸術家の社会貢献活動への支援と教育を行っている認定NPO法人あっちこっちと、美術大学の学生がつながりを持ち、コンサートのチラシやポスターのデザインを分担し、作成しました。また、参加者からの意見も取り入れつつ、デザインを改善する双方向のつながりも続けています。
- ・音楽系には強いものの、美術系の学生への広報が足りなかった認定NPO法人あっちこっちが、美術大学の学生にアプローチする足掛かりを得ると同時に、学生支援にもつながりました。
- ・団体は、美術大学の学生が大学を卒業した後も引き続き一緒に活動を続けており、今後も、美術大学との芸術を通じた社会貢献活動の連携を続けていきます。

No.23 手話通訳団体と福祉従事者等へのIT支援NPOがコロナ禍で協働

【実施主体】

横浜市手話通訳奉仕団たつの会×特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネット

- 横浜市手話通訳奉仕団たつの会は、手話サークル活動と、横浜市から委託された手話講習会を開催する団体です。
- 特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットは、福祉従事者や地域に暮らす様々な補助が必要な人へ、パソコン・スマホ・SNS・Zoom等の講習会、ホームページ制作サービス等のIT支援や相談、情報提供を行っている団体です。
- 4年前に、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットに、リニューアルしたホームページの運用管理等を依頼したことがきっかけで、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットの勉強会に参加し、パソコンやスマホの活用や技術サポートを受けながら、市民活動を円滑に遂行するための協働が続いています。
- 2020年度に引き続き、2021年度も、コロナ禍により会場での活動が中止になった際、ホームページによる動画配信に変更しましたが、横浜市手話通訳奉仕団たつの会が動画を撮影、その動画を、特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットが、参加者専用のホームページで限定公開しました。2021年4月から2022年3月までの間で、数回の動画を配信。両団体が連携することで、オンラインによる手話講習会を実施することができました。
- 今後も、特定非営利活動法人NPO福祉支援ゆうやけネットの勉強会に横浜市手話通訳奉仕団たつの会のメンバーが参加する等、市民活動のさらなるステップアップのために連携して活動していく予定です。

手話入門コース 動画一覧
はじめに、「手話入門・基礎動画1」先日の説明会と今後について」をご覧ください。

• 手話入門・基礎動画1 先日の説明会と今後について



• 手話 入門 動画2 挨拶表現 (1)



• 手話 入門 動画3 手話の役割について

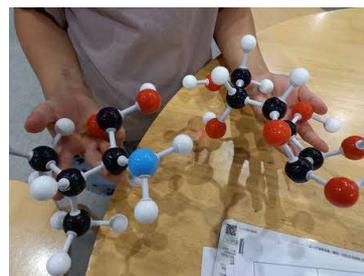
No.24 「寄付でつなぐ未来へのバトン2021」寄付月間賛同企画イベントの開催

【実施主体】 寄付月間 2021@日本大通実行委員会※¹



- 寄付月間※²の趣旨に賛同した19団体が実行委員会をつくり、体験イベントなどを通じて、未来をよくする寄付について考えるイベントを神奈川県住宅供給公社ビル1F Kosha33 ライフデザインラボ及びオンライン（Zoom、Web、YouTube、FacebookLive等）にて開催しました。

- 寄付月間としての協働企画4年目となった2021年は、メイン企画を12月11日、12日に開催、発信しました。コロナ禍2年目の参加団体は19、実施企画は22で、オンラインを併用しつつも会場実施のイベントが増え、来場者の声と笑顔が会場で見られました。



- 例えば、化学の元素、原子、周期表について、分子模型を使って小学3年生にも分かりやすく教えてくれる理科講座、東京パラリンピックに関わった横浜に所在するNPOのトークイベント、マレーシアへ行くオンラインツアー等、多数の方に参加していただくことができました。

- 2022年も新たな方向性を検討しながら、寄付月間の賛同企画として実施する予定です。

※¹ 寄付月間 2021@日本大通実行委員会 アジアの女性と子どもネットワーク/Kosha33 ライフデザインラボ/子育て中の女性のライフデザインコーチング/NPO法人 Sharing Caring Culture/認定NPO法人スローレーベル/一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ/地域食堂「さくらホームレストラン」/認定NPO法人地球学校/NPO法人つるみままっぷ/NPO法人日本補助犬情報センター/株式会社ピクニックルーム/NPO法人びーのびーの/NPO法人森ノオト/一般社団法人ユースクラシック/ライフドック横浜/Laugh ストレッチヨガ/理科クラブ/令和シニアライフサポート/ワイワイ会議…みんなで話そう横浜での子育て



※² 寄付月間 (Giving December) は、NPO、大学、企業、行政など寄付に係る主な関係者が幅広く集い、寄付が人々の幸せを生み出す社会をつくるために、12月1日から31日の間、協働で行う全国的なキャンペーンです。